

潤いの森 10月

キリ

キリ科落葉高木 花期：5月



キリの幼苗が所々に生えてきました。キリは、大きくなると中が空洞になり木材としては使い物にならなくなるため「植えないバカに切らぬバカ」ということわざがあります。また、切っても芽が出てくるので、切ってもキリがない。ということで、キリとなったとも言われています。

桐箆笥の歴史

江戸時代末期ごろから庶民にも桐箆笥が使われるようになり、女の子が生まれると庭に桐の木を植え、嫁入りの際に桐箆笥にして嫁ぐという風習が生まれました。



ヒイロタケ

タマチョレイタケ科
発現時期：4～11月



ヒイロタケは、とても目を引く色をしており、森の中でも大変目立つキノコです。潤いの森ではコナラやクヌギの枯木に出現します。毒はありませんが食用には向かないようです。発色が良いのでキノコ染として使われることはあるようです。

ボケ

バラ科落葉低木 実の収穫期：9-10月



ボケの実が成り始めました。ボケの実は黄色に変わり良い香りがしてきたら収穫時期になります。熟す前はまだ毒性があるので注意が必要です。食べ方は、ジャムや果実酒などが向いてるそうです。



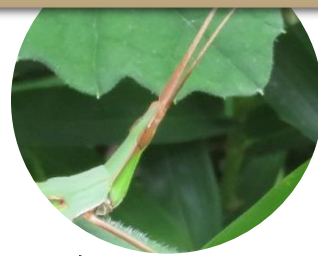
ショウリョウバッタモドキ

ショウリョウバッタ

バッタ目バッタ科 観察時期：8-11月



ショウリョウバッタに似たバッタですが、よく見ると頭部は尖らず、目も細くありません。ショウリョウバッタモドキは敵の気配を感じると、飛んで逃げるのではなく葉の反対側に隠れたり面白い習性があります。



カメノコテントウ

テントウムシ科
観察時期：5-10月



テントウムシの中でもとても大きく1cmほどあります。オニグルミなどに寄生するハムシ類の幼虫を食べるため、森ではオニグルミの近くで発見することが多いテントウムシです。

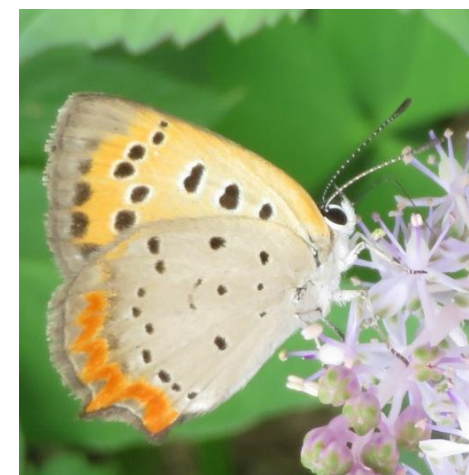
ベニシジミ

チョウ目シジミチョウ科 観察時期：3-11月

ベニシジミは、早春から晩秋まで長い期間に見られる蝶です。年に4～6回の羽化があり、冬は幼虫で越冬しますが稀に成虫で越冬する個体もいるようです。真夏のベニシジミは名前の通り濃いオレンジ色の翅となりますが、早春や晩秋になると色が薄なってきます。また、これらとは違った白化型という現象も起きることがあり、白化型はとても珍しい個体です。潤いの森では10年前に観測されて以降は見られていません。



真夏



早春、晩秋



白化型